

令和7年度使用

中学校用教科用図書研究資料

英 語

北部採択地区協議会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」などで構成し、複数の単元のまとめである「Stage Activity」に向けて、スモールステップで積み上げてゴールにつなぐ構成となっている。特に、「扉」では、単元を貫く問いを通して題材への興味を高め、「Unit Activity」では、各パートの「Activity」で用いた表現を生かして、目的・場面・状況を意識した言語活動に取り組む工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Programを「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review&Retell」「Action」で構成し、新出表現を繰り返し取り扱うことで確実な基礎・基本の定着が期待される。特に、「Scenes」では、マンガ形式や朱書きで新出表現が導入されており、巻末の「CAN-DOリスト」が「とびら」に示されている表現とリンクしていることで、自身が1年間を通して身に付けた表現がわかるという工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「とびら」「Scene」「Goal Activity」で構成し、「Scene」で学習した内容を活用する「Goal Activity」が設定され、また、複数のLesson毎に統合的な言語活動に取り組む「Project」が設定されていることで段階的に学習できる。特に、「とびら」では、学習の見通しを立て、題材やテーマへの興味・関心を高めたり、「Small Talk Plus」では、即興で話す活動を通して表現力を高めたりすることができる工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「扉」「Part」「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。

38 光 村	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Goal」で構成し、「読む」「聞く」「書く」「話す（やり取り、発表）」の様々な領域における言語活動が準備されており、繰り返し英語を使いながら知識・技能の習得を図ることができる。特に、各Unitと帯教材「Story Retelling」を並行して学習することで、即興で話す力を高めたり、「Goal」では、登場人物になりきって発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。</p>
61 啓林館	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「とびら」「Part」「Read / Listen&Think」「Think&Speak / Write」「Let'sシリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料に合わせて設定されており、場面に応じた英語力を育成できる。特に、「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション能力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「単元を貫く問い」である「Unit Question」を設定し、各パートのモデルステップの「Activity」と「Unit Activity」に取り組むことで、単元を通して思考を深めていくといった工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、Unitの活動目標が明確に示してあり、学習する前に「Preview」を聞くことで、目的・場面・状況を想起しやすくしている。「Read and Think」ではまとまった文を読み、自分の考えを表現することができる工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Unit後の「Stage Activity」では、目的・場面・状況を明確に設定し、ペアやグループで伝え合う言語活動の設定の工夫が見られる。</p>
9 開隆堂	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「Scenes」と本文の場面設定が統一され、かつ同じ言語材料を扱うことで使用場面が明確になっている。また、各Programにおける様々な言語活動で活用した表現を「Our Project」で統合的・発展的に活用する工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Scenes」ごとに日本語のタイトルがつけられており、新出表現を用いた対話の内容理解がしやすくなっている。単元末の「Review&Retell」では、自分の言葉で表現する機会を設定するといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Program後の「Our project」では、思考を整理するツールを用いて情報を整理し、言語活動につなげていく学習活動が段階的に設定されているという工夫が見られる。</p>

<p>15 三省堂</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「Small Talk」「Listen and Read」「Think about Yourself」などの言語活動が豊富に設定されている。また、対話のきっかけや理解の助けになるように資料としての写真や図、表などが多く用いられるなどの工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を読み取る形で「Take Action!」が設定されている。「For Self-study」では、学習者が抱くであろう悩みについて学び方を提案し、個に応じた学びを支援するといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Lesson後の「Project」では、生徒自身がテーマを決め、その後ペアやグループで協働しながら言語活動に取り組むことができるという設定の工夫が見られる。</p>
<p>17 教 出</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに、「Tips」では各技能を高めるコツを、「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、Partごとの「Think&Try!」では、会話の続きを考えながら演じさせ、単元末の「Read&Try!」では、学んだことを説明する発展的な学習ができるようになっている。各Partにおいて小学校で学んだ単語も表記されるといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Lesson後の「Project」では、具体的かつ豊富な例に触れることで生徒自身が最適な表現を選択し、言語活動につなげていくことができる設定の工夫が見られる。</p>

<p>38 光 村</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「Goal」の活動では、Partの学習の振り返りを促すヒントが示されている。また、巻末には各学年に応じた英語の学び方ガイドを掲載するなど、学習者が主体的に学びを振り返り、繰り返し活用できるなどの工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、帯活動に有効な「Retelling」が掲載され、写真・イラストやキーワードを用いて、自分の言葉で伝える機会が設定されている。各Unitでの表現活動に役立つ言語材料をまとめた「Active Words」がテーマごとに分類されるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Unit後の「You Can Do It!」では、ヒントを与え過ぎないことで生徒自身の思考を深めさせ、言語活動につなげていくという設定の工夫が見られる。</p>
<p>61 啓林館</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や興味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit Goal」では、技能の明確な目標が示されると共に、目標に対する自己評価ができるような工夫がされている。Partごとに掲載されている「Enjoy Chatting」では、即興でのやりとりを促す工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Unit後の「Project」では、自分の考えを整理し、言語活動を行った後、ペアやグループでお互いに助言したり議論したりする場面が設定されている工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、本文で使われている文が「Key Sentences」として同ページに掲載されているので、本文中の重要表現を確認しやすくなっており、「Round 1、2」では、読解のポイントを絞って英文を読む活動が段階的に設定されていることで、生徒たちの読解力育成につながる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「デジタルコンテンツ」に語句や本文の音声以外にも、「クイズ」や「Key Sentences」を解説する動画、復習のためのアニメなどが収録されているので、生徒自身が既習事項を復習したり、表現活動をしたりする際のサポートになるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、表示されたページ画面に触れるだけで内容ごとに拡大表示されるとともに、「書き込み」画面を開くと、「リンクの追加」ができる機能が備えられ、個別学習に必要なデジタル資料を収集できるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p>
9 開隆堂	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、「Scenes for Basic Dialogs」で、導入→理解→自己表現の流れが同じアイコンで示され、学習が進めやすくなっている。また、各学年の「Our Project」の目標が示されているので、1年間の学習の見通しを持ち、3年間の到達目標がわかる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「とびら」に目標や、単元を通して身につけるべき表現が示されており、生徒自身が確認し、見通しをもちながら学習に取り組めるようになっている。また、各ページの欄外にProgramにおける学習の進捗を示し、生徒の達成度が分かる工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、本文のシートだけでなく「学習者支援」のシートが設定され、精選された情報が大きく表示されたり、「ワークスペース」のアイコンから四線ノート等を活用できたりするなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p>

<p>15 三省堂</p>	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、各Partの「Scene 1」に「Small Talk」が設けられ、単元のテーマや題材に関した身近な事柄について、ペアで即興のやり取りができる工夫が見られる。また、いずれの単元も基本文確認→本文理解→自己表現の流れになっており、1つの表現に特化して学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、小学校から中学校の学びへスムーズな接続が図られるように、英語学習のスタートとして「サイコロトーク」や豊富なイラストなどが掲載されている。また、巻末資料では、基本文のまとめが一覧で見開きに掲載されており、復習や言語活動に役立つような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、表示画面に触れるだけで内容が拡大表示されるとともに、拡大した画面の左下には「New Words」のカードが表示され、クリックすると新出英単語が音声で読み上げられ、繰り返し学習できるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p>
<p>17 教 出</p>	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、復習や定着の確認ができるよう「小学校での既習表現」が見やすく掲載されており、基本文導入後の練習として、すぐに表現活動に入ることができるように「Tool Kit」が設けられ、イラストを参考にしながらスムーズに進められるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとってのわかりやすさについては、Lesson毎に設定されている、文法のまとめである「Grammar」が簡潔に説明され、内容や見た目も工夫されている。また、「デジタルコンテンツ」には、学習シートや対話のやり取りの様子が分かる動画などがあり、生徒たちの学習サポートとなるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、「WAP (Words & Phrases)」から語句の学習ができるほか、画面右端に「フラッシュカード」「思考ツール」など、多様な学習支援のアイコンが設けられ、自分の学習状況に応じて設定を変更できるなど学習者に配慮した工夫が見られる。</p>

<p>38 光 村</p>	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、表現力を磨くことができるように、各Unitにおいて登場人物になりきってせりふを考える「You're the Writer!」のコーナーや、即興的なやり取りをする力を付けるために、様々な質問が提示されている「Let's Talk」を巻末資料として設けるなどの工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、とびらに、写真やイラストが多く掲載されており、これから学習する内容を想起させる工夫がある。また、巻末資料の「Active Words」には、会話に役立つ表現が豊富に掲載されており、表現活動の手助けとなるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のためのアイコンが平易な言葉で表示され、操作が分かりやすくなっているとともに、サポートのアイコンを開くと、「見やすさ」「読みやすさ」「使いやすさ」を自分で設定することができるなど学習者に配慮した工夫が見られる。</p>
<p>61 啓林館</p>	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、巻末資料として基本本文がUnit毎に見やすくまとめられており、確認や復習ができるようになっている。また、文法のまとめを取り扱った「Focus on Form」では、コミュニケーション活動が設けてあるので、文法構造を示すことに加えて実際に練習をしながら習得できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、活動に役立つ語彙・表現が「Word Box」に見やすい配列で掲載されている。また、「Listen&Think」のリスニング原稿が掲載されているので、確認や復習をする際に、原稿を見ながら、聞き取った内容を整理することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のアイコンについての説明を「?(ヘルプ)」で一覧できるとともに、「暗記ペン」「バインダー」等が設けられ、英単語の暗記や自分の考えをバインダーで追加することができるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p>

4 地域課題への対応

〔観点4〕 これまでの学びや経験を生かすとともに、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるような工夫が見られたり、本地域の実態に配慮した工夫が見られたりしているか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 「Stage Activity」においては、自分の学校や学校生活について、具体例を交えながら説明するなど、これまでの学びや経験を生かす工夫が見られる。また、「Unit Activity」においては、留学生を連れて行く場所の情報をまとめ、プランを発表するなど、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるよう工夫されている。
9 開隆堂	(1) 「Review&Retell」においては、これまで学んだ内容を振り返り、自分のことばで伝える活動が設定されており、これまでの学びや経験を生かす工夫が見られる。また、「Our Project」においては、日本に住む外国人に向けておすすめスポットを紹介するチラシ作りに取り組ませるなど、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるよう工夫されている。
15 三省堂	(1) 「Project」では、複数の技能を活用した活動に取り組み、総合的な力をつけられる構成になっており、これまでの学びや経験を生かす工夫が見られる。また、「Goal Activity」においては、海外から自分の住む町へ来る旅行者向けに町や地域の魅力を伝える動画をつくるなど、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるよう工夫されている。
17 教 出	(1) 「Task」においては、単元内容を確認する課題と身に付けた表現を使った自己表現を含む課題に取り組むなど、これまでの学びや経験を生かす工夫が見られる。また、「Project」においては、地域にある課題や問題などの原因や解決するためにできることを発表するなど、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるよう工夫されている。
38 光 村	(1) 「Goal」においては、具体的な言語活動の中で既習事項を繰り返し活用することを通して、これまでの学びや経験を生かす工夫が見られる。また、「You Can Do It」においては、自分の住んでいる町の魅力を知ってもらうために観光プランを作成し、英語で発表するなど、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるよう工夫されている。
61 啓林館	(1) 「Project」においては、生徒が実際の言語の使用場面を想起して、臨場感をもって学習を進めることができるなど、これまでの学びや経験を生かす工夫が見られる。また、「Think&Write」においては、日本や自分の住む地域のおいしい食べ物について紹介記事を書くなど、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるよう工夫されている。

